

## 「住み慣れた場所で私らしく～在宅ターミナルケアを支えるケアマネジャーの役割～」

### 居宅介護支援事業所版 ビデオ報告書の構成

NPO シルバー総合研究所 理事 桑野 康一

## I. ビデオ報告書の目的

本事業の概要と、在宅ターミナルケアに関する居宅介護支援事業所の現状を伝え、在宅ターミナルケアにおけるケアマネジャーの役割の考察をビデオ報告書の目的とした。

アンケート調査、訪問調査等によると、ターミナルケアに限らず、ケアマネジャーの仕事の内容、仕事に対する各人の考え方は、地域の特色、事業所の成り立ち、ケアマネジャーの前職などの条件により多彩であった。そこで、様々なバックグラウンドを持つ複数のケアマネジャーを取材し、それぞれのインタビューを通して、「福祉的ターミナルケア確立」の課題抽出を試みた。

## II. 取材先

取材先は、アンケート調査、訪問調査の結果だけでなく、委員、ワーキング委員の推薦などを併せて選択した。選択条件はこれまでに在宅ターミナルケアを複数経験していることで、全体として前職(兼任職)が重ならないようにした。取材先は、以下の4事業所である。概要を記した。

① 神奈川区医師会居宅介護支援センター ----- (神奈川県横浜市)

○ 対象 管理者 陣川チズ子、ケアマネジャー 大西ミチコ(前職 訪問看護師)

○ インタビュー要旨 事業所開設当初から在宅ターミナル希望かどうかで区別せずに受けてきた。受けた時からこちらで出来ることをきちんと家族に示し、緊急時の対応を各ケースごとにマニュアルにしてある。家族との信頼関係作りが重要。グリーフケアとして死後1週間程度の後、家族の様子を伺いにいく事にしている。

② 株式会社モテギ ----- (東京都渋谷区)

○ 対象 ケアマネジャー 佐久間マチ(前職 ホームヘルパー)

○ インタビュー要旨 人と人の関係が一番大切。生活の視点でサービスを調整している。利用者と一番長くつきあっているのはケアマネ。本人の楽しみや何に興味があるかを知ることが重要。スタッフ間にあってはケアマネは連絡調整係であり、率先して情報を集めるようにしている。

③ 医療法人社団 爽秋会 岡部医院 ----- (宮城県名取市)

○ 対象 ケアマネジャー 玉井照枝(前職 薬剤師)、医師 岡部健

○ インタビュー要旨 状況の変化をいかに早くキャッチするかが鍵。電子カルテ、メールで情報を早く共有できるよう工夫している。適切な時期に適切なサービス提供と、適切量を考えるのがケアマネの役目。さらにターミナルでは家族全体を支えることが必要。癌の患者でも最後の状況まで関わられるリハの仕方がある。

④ 渋谷介護サポートセンター ----- (東京都渋谷区)

○ 対象 ケアマネジャー 繁綱恵美子(前職 特別養護老人ホーム介護職員)

○ インタビュー要旨 病院から退院される短期のターミナルケースを担当することが多い。その場合、退院する前の病院で家族、福祉用具サービス事業者とカンファレンスをおこなう。地域柄訪問医師が確保できるので、医療面は医師にお願いしている。できるだけ家族がケアを継続できるように、様々な介護の工夫を自分の知識や経験から教えるようにしている。

### III. 構成

映像の構成は4章構成とした。以下のようである。

- 第1章 オープニング～事業の概要
- 第2章 アンケート結果報告
- 第3章 在宅ターミナルケアの実際～インタビューより
- 第4章 ケアマネジャーの役割
- 第5章 エンディング～福祉的ターミナルケアの確立に向けて

#### IV. 第2章 アンケート結果報告の主な要素

「第2章 アンケート結果報告」ではアンケート結果の概要を紹介した。以下がその概要である。

- 在宅でターミナルケアをおこなったことのある居宅介護事業所は54.5%だった。全体の5割の事業所が、在宅ターミナルケアを経験している。
- にもかかわらず、自宅で人生を終えたい希望があったとき、「希望に添える体制が構築されている」と答えた事業所は7.3%で1割に満たなかった。居宅介護支援事業所は在宅でのターミナルケアを経験はしているが、対応に困難を感じている現状が推測できた。
- 在宅ターミナルを支える重要な条件整備を聞いたところ、「24時間対応可能な訪問医療、看護の確保」が27.9%と最も多かった。次に「介護者への医療行為や介護に関する指導」、「医療機関との連携強化」が18.4%、「訪問医師の確保」が15.3%と、医療面の整備に関する重要性を訴える事業所が多かった。
- ケアマネジャー調査では、ケアマネジャーが有している資格は「介護福祉士」の割合が39.5%と最も多かった。次いで「看護師」は24.8%だった。
- 在宅ターミナルケアに不安を感じる、と答えたケアマネジャーは67.1%だった。
- 不安の要因としては、「かかりつけ医との連携」、「訪問医療チームとの連携・調整」、「緩和ケアやホスピスケアに対する知識不足」が上位にあがっていた。「かかりつけ医」との連携の課題は、訪問調査などでも指摘されていたが、特に総合病院など中大規模病院との連携に困難さを感じているようであった。医療との連携という面では、「患者の情報提供」という側面と、実際にターミナルケアを支える「訪問医療班との連携」は別の課題として捉える必要があるのではないだろうか。
- 利用者調査では、在宅ターミナル直接の死因は「がん」45.5%が最も多く、次いで「心不全」20.9%、「老衰」18.8%だった。末期ガンのターミナルケアは、医療、介護ともに重要な課題である。
- 以上の項目は、ケアマネジャーが担当ケースを振り返って、在宅ターミナルケアが難しかった点、という項目でも現れており、難しかった点として、「かかりつけ医との連携」、「家族に対する死の準備教育」、「利用者・家族との調整」、「訪問医療チームとの連携・調整」が上位にあがっていた。

- 「利用者・家族との調整」は、訪問調査でも大きな課題としてあがっており、在宅の場合、家族の介護力の見極めや、それに応じたサービスの選択などがケアマネジャーの大きな役割の一つであるという認識であった。

## V. 第4章 ケアマネジャーの役割の主な要素

「第4章 ケアマネジャーの役割」では、在宅ターミナルケアに関わるケアマネジャーの役割を整理した。以下がその主な概要である。

- スタッフコーディネート～在宅ケアを支えるチーム作り
  - ・スタッフ間の関わり調整、問題提起の役割、スタッフに冷静な風を送る役割
  - ・スタッフ教育、地域研修、スタッフケア
  - ・看取りの経験を共有する(デスカンファレンス)
- 家族全体を支える視点をもつ～トータルコーディネートの視点
  - ・家族が必要としているケアを見極める
  - ・家族の力を侮らない
  - ・行政窓口、交渉の方法を知る(社会面・経済面の問題)
  - ・グリーフケア
- タイミングをつかむ～適切なときに適切なケアを
  - ・生活の視点、本人の視点でサービスのタイミングをつかむ
  - ・最期までリハビリの視点を持つ
  - ・適切な疼痛管理の知識を持つ
  - ・本人、家族への精神的サポート